



# とことこ列車で 散歩にでかけよう

四日市あすなろう鉄道 ー私たちを乗せて、明日へー

本年、四日市あすなろう鉄道内部線は開業 100 周年、八王子線は開業 110 周年を迎えました。100 年を超える歴史の中で、本市の産業発展を支え、途中、廃線の危機に直面しながらもそれを乗り越えて存続してきた四日市あすなろう鉄道。現在は市民の通勤や通学をはじめ、生活を支える公共交通としての役割を果たしています。そんな四日市あすなろう鉄道の魅力と、沿線地域の文化財・見どころを紹介します。

そして、今年日本で鉄道が開業して 150 周年。本市を走る身近な鉄道に乗って、沿線散策と歴史の痕跡を探す旅に出掛けてみませんか。



あすなろう四日市駅のホームから見える阿瀬知川。かつては八王子線で運んだ物資を、この川の水運を利用し四日市港まで輸送した物流の要でした



大正元年	大正11年	昭和49年	昭和51年	平成 27年
三重軌道が日永駅～八王子村(後の伊勢八王子)駅間を開業	日永駅～内部駅間を開業	集中豪雨により被害を受けた日永駅～伊勢八王子駅間の運行休止	日永駅～西日野駅間が運行再開し、西日野駅～伊勢八王子駅間の運営業を廃止	公有民営方式に転換し、四日市あすなろう鉄道として運行開始



リニューアル前の車両

## 四日市あすなろう鉄道ってこんな電車です!

### 1 「あすなろう」ってどんな意味があるの?

廃線の危機を乗り越えて新たなスタートを切った平成 27 年から、「明日に向かって」という未来への希望と、ナローゲージ(特殊狭軌)であることを表現して「四日市あすなろう鉄道」と名付けられました。

### 2 ナローゲージって何?

あすなろう鉄道の最大の特徴は、線路幅が762mmの特殊狭軌線・ナローゲージ鉄道であることです。特殊狭軌線は、現在では四日市あすなろう鉄道を含めて全国に3社線\*を残すのみとなっています。ナローゲージは英語の narrow 「狭い」という語に由来します。\*他に三岐鉄道北勢線、黒部峡谷鉄道がある

### 3 先に開業したのは内部線よりも短い八王子線?

明治時代の終わり頃、生糸などの生産物を運搬するため、四郷村の有志が鉄道を敷設したのが始まりです。かつては西日野駅の先に四つの駅があり、今では廃駅になった八王子村駅が、本鉄道の始発駅でした。

#### 四日市あすなろう鉄道の魅力を運転士に聞きました /

あすなろう四日市駅を出発し、天白川や鹿化川を渡る時には鈴鹿山脈を車窓から眺めることができます。車窓から眺める自然がある一方で、間近に迫る家々の間をすり抜けるようにして走る時の、単線ならではの景色も見どころではないでしょうか。

車体カラーは市民投票で緑色になりましたが、4 編成あるうち 1 編成だけは実は青色になっています。これが意外と好評で、青い車両はレアなので電車好きのお子さんに喜ばれています。また、青い車体は写真映えもするようです。



四日市あすなろう鉄道運転士 上野理志さん

あすなろう鉄道は今こそ廃線の危機を乗り越え、ナローゲージ鉄道であることなどが注目され、市民の認知度も高まっていますが、以前は沿線住民しか知らないようなローカル線でした。今後、さらに市内外の人にあすなろう鉄道のことを知っていただければ、四日市市を象徴する存在にもなり得る観光資源としても価値の高い鉄道だと思います。

## 鉄道に乗ってスマートムーブ



「スマートムーブ」とは日々の暮らしの中での移動について、地球温暖化の原因の一つとされる CO<sub>2</sub> の排出量の少ない方法を選択しようというものです。電車・バスなどの公共交通機関の利用、自転車・徒歩での移動は、「スマートムーブ」で推奨する行動です。これらの取り組みは、環境に良いことに加えて、快適で健康的といった多くのメリットがあるので、みなさんにぜひ積極的に取り入れてほしいです。

「スマートムーブ」は SDGs が目指すゴールの 13 「気候変動に具体的な対策を」に直結した行動になります。また、社会全体として公共交通機関が発達し利便性が向上すれば、高齢者など交通弱者の移動手段の確保にもつながるため、ゴール 11 「住み続けられるまちづくりを」にも関係しています。環境に良いだけでなく、誰もが暮らしやすいまちにするためにも、公共交通機関である四日市あすなろう鉄道を利用してみませんか。



公共交通推進室 北澤将一郎



## 四日市あすなろう鉄道、車体のここに注目!

車体カラーは本市の豊かな自然をイメージした「なろうグリーン」。

あすなろう四日市駅と西日野駅間でサイクルトレインを運行。自転車を車内に持ち込んで、下車後は自転車で乗り換える旅もできます  
※時間限定で運行

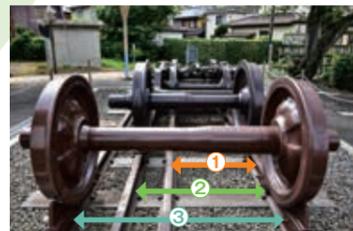


電車には珍しい一人がけシート。小さい車体でも輸送効率を上げるために、ベンチシートからこの形に変更しました



数年前まで扇風機のみだった車内にエアコンを設置。重量の問題で車体上部に載せられないため、珍しい床置きになっています

シートの持ち手はハート形。前後どちらからでも握りやすい機能性と、デザイン性を兼ね備えています



- ①あすなろう鉄道(762mm)
- ②JR在来線(1067mm)
- ③新幹線・近鉄在来線(1435mm)

線路幅は762mm。日永駅には各種車輪とレールを展示しているので、一般的な線路幅の違いが実感できます



カーブになっているホームに接触しないように、車体の先頭は、角を取ってあります

### 教えてくれたのは、この人



NPO法人  
四日市の交通と街づくりを考える会  
副理事長 宗像基浩さん

四日市あすなろう鉄道は、とてもユニークで魅力の詰まった鉄道です。ナローゲージ鉄道という希少性はその一つですが、存続のためにさまざまな工夫を凝らした小さな車体や、歴史的背景も唯一無二の鉄道だと思います。例えば日永駅は国内唯一のナローゲージの分岐が見られる駅で、さらに、電車のホームとは思えないような急カーブに入ってくる車体を見ることができます。そして、駅ホームの上屋を支える柱には、再利用した昔のレールが使われていて、そこに施された刻印が歴史を物語っています。受け継いできた歴史は、途切れてしまえば新しく作ることはできません。

ただ、本鉄道の廃線が検討された時、歴史的価値ゆえに残すべきだという感傷的な議論にはしたくありませんでした。全国的にローカル鉄道を廃線にしてバス運行に切り替える事例は多いですが、鉄道とバスでは輸送効率が異なりますし、バスを増やせば道路の交通渋滞を招くという問題にも関わってきます。鉄道そのものが持つ価値や利便性を知ってもらいながら、これからも走り続けてほしいですね。



支柱として再利用された古いレールに残る CARNegie 1914 の刻印。鉄鋼業で成功したアメリカのカーネギー社製だとわかります

## あすなろう沿線 で、史跡・文化財をめぐり散歩



令和3年にリニューアルした内部駅

### その1 内部線の終着駅・内部駅からお散歩

#### ① うつべ町かど博物館 (内部駅から徒歩16分)

内部地区の歴史と文化をテーマにした博物館。遺跡から出土した土器なども展示しています。現在、内部線100周年記念事業として、企画展「内部線の過去・現在・未来」を開催中(令和5年2月28日まで)

時 金・日曜日 9:00~12:00 問 ☎ 347-1224



取材時制作中の内部線ジオラマ



#### ② 杖衝坂 (内部駅から徒歩16分)

東海道でも急な坂道の難所として知られています。日本武尊がこの坂で残した言葉が三重の名の由来と言われています



吾が足三重の  
勾りなして  
甚く疲れたり

#### ③ 芭蕉の句碑 (内部駅から徒歩18分)

江戸から伊賀への帰途、松尾芭蕉が馬に乗って坂を登った際に、急坂のために落馬したことを詠んだ句が有名です



歩行ならば杖つき坂を落馬かな

#### ④ 血塚社 (内部駅から徒歩20分)

鳥居の奥にある祠は、日本武尊が足の血を洗った場所と伝えられています



内部の歴史と文化を守る会  
うつべ町かど博物館  
館長 渡邊勝幸さん

うつべ町かど博物館は、令和4年3月に、より利用しやすい博物館を目指して設備を改修し、展示も見直しました。博物館はただ文化財や資料を保管するだけではなく、それを活用するという役目があります。当館は松尾芭蕉が歌に詠んだ杖衝坂の目の前にあり、その急傾斜を実際に体感することができます。また、杖衝坂はこの地方が「三重」と呼ばれるようになった由来の地でもあります。坂を登りきった先には、かつて東海道を旅した人々のための休み処が軒を連ねていたと言われています。今はその光景を見ることはできませんが、当館が杖衝坂を訪れる人たちにとっての休憩所のような存在になることを願っています。

その2 八王子線の終着駅・西日野駅からお散歩

四郷地区は四日市の近代産業発祥の地です。明治期に入りこの辺りは製茶業、製糸業、紡績業が盛んになり、四日市市と合併する以前から四郷村として発展していました。その四郷村の時代に、お茶や生糸を海外へ輸出するためにヨーロッパ視察をした有志が、この地の産業発展のために鉄道を引こうと構想したのが現在の四日市あすなろう鉄道の原点です。八王子線は、現在まで続く産業都市四日市の基盤を作った存在の一つだったとも言えるでしょう。東洋紡(株)の前身である三重紡績を作った伊藤傳七は、この地域の出身です。

古くから人が住んでいた四郷地区には、文化財も数多く残されています。西日野駅の近くに集中していますので、これらを巡った後、四郷郷土資料館に来ていただくのが定番の散策コースですね。現在、資料館は改装中のため見学はできませんが、四郷地区には見どころがたくさんありますので、ぜひ史跡と文化財の散策に当地を訪れてみてください。



四郷郷土資料館 館長  
四郷郷土資料保存会 会長  
古川芳彦さん

⑤ 四郷郷土資料館 (西日野駅から徒歩 12 分)  
※耐震補強・復元修理工事実施中



大正 10 (1921) 年に三重郡四郷村役場として建設された洋風建築で、本市の有形文化財に指定されています

築 100 年の大正モダンな旧四郷村役場を次代に継承するため寄付を募っています。

詳しくは、市ホームページをご確認ください



① 顕正寺 (西日野駅から徒歩 8 分)



鈴鹿の神戸城から移築した山門は市指定有形文化財。その他に県指定文化財の木造仏頭や阿弥陀如来坐像などがあります

② 伊勢安国寺跡 (西日野駅から徒歩 9 分)



足利尊氏によって造営され、元龜 3 年に焼失したと伝わっています。現在は県指定史跡として石碑が立っています

③ 日野神社 (西日野駅から徒歩 9 分)



県指定無形民俗文化財である大念仏行事で使用される太鼓と鉦を保管しています



④ 四郷風致地区



夏の広場

春の丘

四郷地区に連なる自然豊かな小高い山を、風致地区として指定しています。春の丘、夏の広場などの散策路が整備されています



歩く時のフォームのポイント

きれいなフォームは疲れにくく、運動効果もアップします。“息が弾む程度の速歩”や“ゆっくり歩く”など、速度に変化をつけて歩くとよいでしょう。

- ① 視線はまっすぐ  
あごを軽く引き、やや遠く(15m先くらい)を見る感じで
- ② 肩は力を抜いてリラックス  
肩の力を抜けば、腕の振りはずっとスムーズに
- ③ 腰の回転で歩幅を広げて  
腰の回転を意識すれば、自然と歩幅は広がります。さらに、股関節周辺の筋肉が使われ、運動効果も上がります
- ④ しっかり大地をキック!  
かかとから着地し、体重を親指の付け根へ移動させ、つま先で大地をしっかりキック!
- ⑤ 頭は揺らさずしっかりと!  
からだの上下左右の余分な揺れに注意して、頭の位置を無駄に動かさないようにしましょう
- ⑥ 呼吸は自分のリズムで  
自分の自然なリズムで歩く
- ⑦ ひじはやや曲げて腕を大きく振りましょう  
ひじを軽く曲げて大きく振れば歩幅は広がります
- ⑧ ひざを伸ばしてかかとから着地  
ひざを伸ばして歩けば、自然とかかとから着地します。かかとから着地をすれば、歩幅が広がります

四日市市健康マイレージに申し込んで、歩いて、健康づくりに取り組もう!

詳しくは市ホームページをご確認ください



(参考) 厚生労働省「保健指導における学習教材集(確定版) D-27」

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 公共交通推進室 ☎354-8095 FAX354-8404  
文化課 ☎354-8238 FAX354-4873